

令和2年度事務事業実績評価表

1 事業概要

		課名	歴史研究所	事業No.	320
事務事業名		会計	一般会計		
		事業区分	政策	実施区分	継続
		開始	H15	終了	
根拠	主要区分	主	記号	計画等名称	
	戦略計画		4	自然と歴史を守り活かし伝え、新たな文化をつくりだす	
	分野別計画			第2次飯田市教育振興基本計画	
			飯田市歴史研究所第4期中期計画		
法令・例規等			飯田市歴史研究所条例		
			飯田市歴史研究所管理運営規則		
事業目的		対象	市民		
		意図	歴史に学び未来を展望することにより将来の地域づくりにつなげる		

2 事業内容

2年度取組	取組内容		経費の内容				事業費(千円)				
		・川路、座光寺地区との連携による地域史の調査研究を継続すると共に、他地区への展開を図るために公民館主事研修会において取り組みを説明し意見交換を実施しました。 ・歴史研究所の活動や調査研究の成果をまとめた年報等を発刊しました。また、歴研ニュースなどで調査研究の情報を発信しました。 ・地域史講座を4回(川路地区2回、座光寺地区1回、南信濃地区1回)、飯田アカデミアを2回開催しました。 ・学輪IIDA×学びあい講座の講師を研究員が担い、調査研究の成果を地域内外の聴講者へ発信しました。	会計年度任用職員(調査研究員等)			7,045					
		調査研究経費			1,319						
		研究集会の開催、年報発行			976						
		アカデミア、地域史講座など講座の開催			247						
		情報誌発刊、市民研究員の育成			625						
		市誌編さん事務経費			565						
		その他の経費			0						
活動指標	指標名(数値で表せる活動量)	単位	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
	刊行物、論文数	件	10	12	10	14	13	11	10	10	
	地域史研究集会参加者数	人	130	88	130	156	160	163	160	0	
	飯田アカデミア・地域史講座参加者数	人	300	334	350	306	380	506	380	154	
	歴研ゼミナール等参加者数	人	500	598	500	460	500	514	500	460	
	認定した市民研究員数(単年度)	人	1	0	1	1	1	0	1	3	
	地域団体との共同調査研究数	件	2	2	2	1	2	1	1	1	
2年度決算(千円)	予算額	13,498	特定財源内訳及び補足事項								
	決算額	10,777	(そ) 諸収入(コピーサービス) 24千円								
	財源の状況	国庫支出金	0	(そ) 出版物売却代 441千円							
		県支出金	0								
		地方債	0								
		その他	465								
一般財源	10,312										

3 事務事業を構成する予算科目

番号	会計	款	項	目	大 事 業	中 事 業	予算額	決算額	中事業名(科目名称)
1	1	10	5	8	11	1	4,020	2,276	歴史研究所調査研究事業費
2	1	10	5	8	11	2	1,348	891	歴史研究所教育事業費
3	1	10	5	8	11	4	695	565	市誌編さん事業費
4	1	10	5	8	1	3	7,435	7,045	会計年度任用職員人件費
5									
6									
7									
振り返り課題認識		<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の拡大により地域史研究集会や講座等が中止や延期となりました。調査研究の成果を還元するため開催方法等を検討する必要があります。 ・地域史研究や貴重な史料を継承するために、歴史研究所の目的や活動を幅広い世代に発信する必要があります。 ・貴重な史料の収蔵環境を検討する必要があります。 							
上記の課題解決のための有効策		<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症レベルに応じたICT技術等を活用した事業の開催方法を予め計画します。 ・地域や研究者、他の社会教育機関等と連携して情報発信を行います。 ・史料の収蔵について他の社会教育機関と検討します。 							
次年度に向けての取り組み		<ul style="list-style-type: none"> ・地域史研究集会等、事業の開催に向けては参加者の安全を確保して実施します。 ・美術博物館と連携して講座の開催や展示を行います。 ・地域史研究を次世代に継承していくために、地域や研究者、他の機関との繋がりを広げます。 							